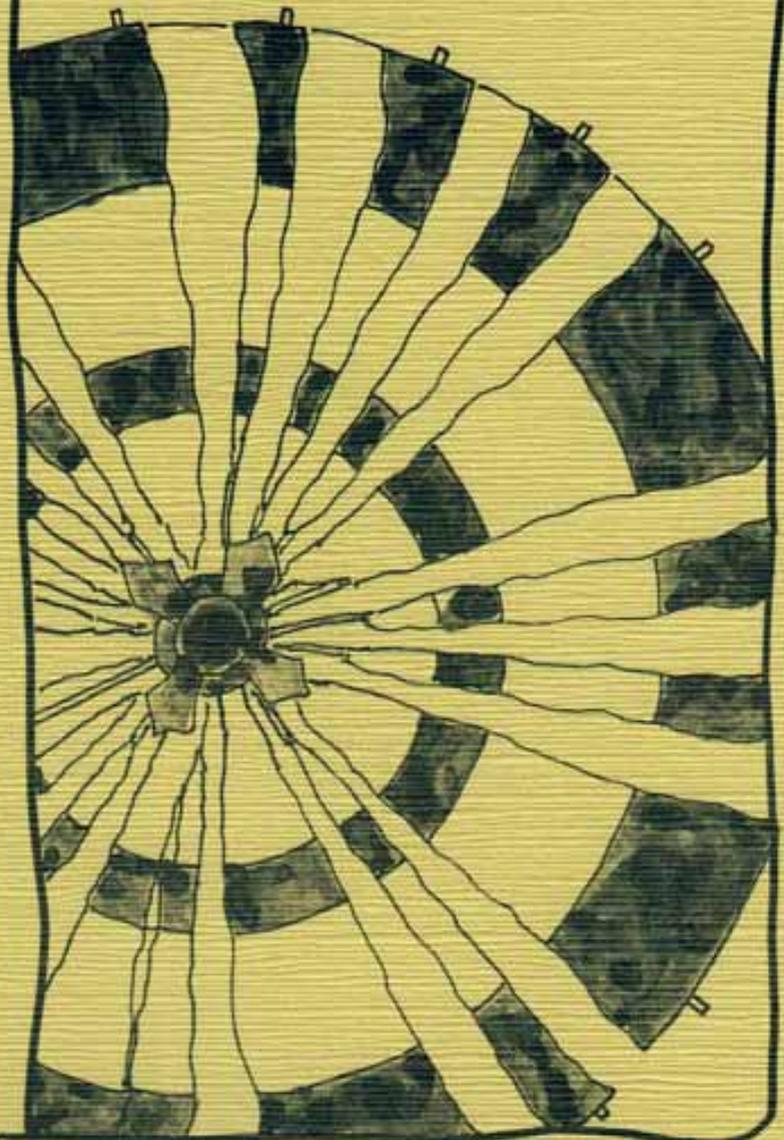


# やぶれ傘



一二五号  
二〇二二年四月

ストローにとどまつてゐる石鹼玉 根橋宏次

ふらふらにひとり芝生にふたりの子 大島英昭

隣国にロシアありけり春の海 きくちきみえ

鳥雲に街は上着を脱ぐ陽気 丑久保 勲

おぼろ夜の手におおぶりのマグカップ 青谷小枝

種袋立て植木鉢置かれけり 廣瀬雅男

寒造りラベルに越後杜氏の名 瀬島酒望

碁会所はどうやら休みスイトピー 安藤久美子

辛夷散る昨日の雀今日も来て 藤井美晴

春彼岸ほのかに甘き白団子 白石正躬

春寒の棺に古き手紙入れ 秋山信行

花冷のビル奥にある古い屋 小山よる

友と会ふミモザの活けてある茶房 有賀昌子

庭石に凹みありけり春の芝 天野美登里

馬小屋に馬の首見え黄水仙 渡邊孝彦

## 抄集句 傘 紀 大 崎 夫 選

他所の猫しきりと通る黄水仙 奥田温子

午後の日が冬の椿に移りをり 木村瑞枝

間伐の林を抜けて犬ふぐり 倉澤節子

本伏せてなんにもしない春の夕 小泉里香

山菜萸咲く家の表札変はりをり 小巻若菜

足下のサクと音して春浅し 高橋宜治

米国で「内定した」と春の虹 萩原久代

花菜漬専業主夫も十年目 松本善一

春日傘まはし日向を選びゆく 道林はる子

冴え返る空に飛行機雲二本 箕田健生

物の芽に紙飛行機の着地せり 武藤節子

オキザリスほつたらかしの鉢に咲く 森 美佐子

ぱりぱりと氷を踏んで兎が通る 湯本正友

下萌えの道緩やかに水辺まで 浅嶋 肇

梅の花五つを数へ家を発つ 泉 一 九

畦道

大崎紀夫

春浅き校庭にまたつむじ風  
蝶を見てしばらくゆけば崖つぷち  
春昼の羊の鈴が鳴つてゐる  
蝶々が庭にきてゐて飛んでゐる  
畦道に風うぐひすが鳴いてゐる

紅梅の向うで竹のさらさらと  
砂採りの船の休日さくら咲く  
沈丁は肉屋のにほひ過ぎてすぐ  
春昼の屋根に積みある屋根瓦  
かもじ草結んであるを跨ぎ越す  
曳かれゆく種牛に日はちかちかと  
春鳴の水脈が別れてゆくところ

石鱚玉

根橋宏次

水温むニスの匂へる操舵室  
 翻車魚のやうな雲くる辛夷の芽  
 春の雨土管をぬらし上がりけり  
 やはらかくめり込む踵犬ふぐり  
 水槽に川の小魚草青む  
 自転車の細身の輪つか初ざくら  
 水草生ふ釣るには小さき魚はしり  
 ストロートにとどまつてゐる石鱚玉  
 海近き匂ひあらせいとう畠  
 抱き上げて海見せてゐる花菜畑

ふらふら

大島英昭

道なりをゆく探梅となりにけり  
 足跡の混み合ふ砂場虎落笛  
 室咲きの並ぶ花屋に丁度客  
 工場にセコムのマークからつ風  
 春浅き家鴨の小屋の前に人  
 辛夷の芽舗装道路に石ひとつ  
 犬ふぐり元荒川に出て帰る  
 梅が香に気づいてすぐに梅畑  
 ふらここにひとり芝生にふたりの子  
 梅真白カーブミラーに人ひしやげ

春の海

きくちきみえ

虫喰ひの深き四五枚春きやべつ  
カーブミラーの上に残雪日が暮れる  
春灯し電柱一本ありにけり  
薄氷をつつくか押すか割ることに  
足元のあればあるだけ土筆摘む  
赤ん坊の足のつつぱり地虫出づ  
隣国にロシアありけり春の海  
回送の電車去る音朧の夜  
パソコンの立ち上がる時亀鳴けり  
本日の死者数さくら咲き出す数

鳥雲に

丑久保勲

乗り初めは大宮經由浦和まで  
日向ぼこ柱の角で凝りほぐし  
宅配は二時に来るはず春の雪  
寒牡丹を見ての帰りの段葛  
ドトールに寄つてまどろむ雪催  
鷹化して鳩となる日はカフェに坐し  
下萌や足場のパイプ外す音  
春の庭へ使ひ残しの油粕  
鳥雲に街は上着を脱ぐ陽気  
歯医者より出れば沈丁かをりゐて

土筆

青谷小枝

日差しみぢんしづくみぢんに軒つらら  
土筆まだ二寸三寸風の土手  
電柱に海拔表示春寒く  
春の陽の伸びくる美容院の床  
ジャングルジムのてつぺんに春の空  
みづうみの雨を見てゐる蜷汁  
紅茶二杯目さへづりを聞き分けて  
ばりと剥ぎぱりとかじりて春キャベツ  
花を見に終点までの切符買ふ  
おぼろ夜の手におほぶりのマグカップ

種袋

廣瀬雅男

晩酌のまづ露味噌に箸を付け  
梅咲いて天神様に幟立つ  
盆梅の枝垂れて咲くもありにけり  
をさなごのよちよち歩き草青む  
明けやらぬ中山道を鴨帰る  
ゆるやかに流るる川や葦の角  
種袋立て植木鉢置かれけり  
穂の芽の上にまさな空がある  
すみれ咲く土手をくの字に登る道  
ひとり来てボール蹴る子やうまごやし

寒造り

瀬島洒望

寒造りラベルに越後杜氏の名  
湯沸かしのケトルピーピー鳴る寒夜  
図書館の外の裸婦像雪が降る  
ふと気づく時計の遅れ寒土用  
蠟梅の前にキッチンカー停まる  
この辺り苗木の畑春きざす  
春寒し部屋に躓くほどコード  
古本に貼られし値札暖かし  
梅かをる住持不在の寺の車庫  
溝川に飛び込みにけり青蛙

スイトピー

安藤久旋子

ちらちらと蝶の寄り来るワンピース  
微動だにせぬふらこの午前中  
煙草屋がマンションとなる遅日かな  
図書館はしばらく休み囀れり  
落味噌を作らう本を読み終へて  
紙飛行機土筆摘む野へ不時着す  
いぬふぐりかなり歩いていぬふぐり  
春の薔薇ステンドグラスより光  
碁会所はどうやら休みスイトピー  
目借時からくり時計鳴り始め

春の潮

藤井美晴

雛飾り無く白酒を少しだけ  
辛夷散る昨日の雀今日も来て  
花杏子雨に濡れたる苔へ散る  
潮速し咲き始めたる幣辛夷  
桜散る道をデイケア・バスが来る  
切り通し越ゆれば春の潮にほふ  
花冷えのベンチ待ち人やつと来る  
白い大皿春野菜たんと盛り  
反り橋の裏ほの暗き花かがり  
水迅し岸の空木の芽吹きぬる

春彼岸

白石正躬

赤城山から空風がすべり来る  
路地抜けて日当たるところ枇杷の花  
麦青む畑の区画見えてをり  
春浅き明けの明星屋根の横  
外灯のともる渡し場春時雨  
田螺鳴く古墳のそばの沼あたり  
木々芽吹く山径細く石ばかり  
コーヒーの粉をかきまぜ春の昼  
春彼岸ほのかに甘き白団子  
菜の花が花瓶に垂れてをりにけり

◇5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	3日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	4日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン1	秋山信行
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	28日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	28日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
6月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	6日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	19日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	25日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	25日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

6月19日(日)の吟行。

集合 10時、JR京浜東北線・北浦和駅。

吟行地 さいたま市・見沼(市立病院の東側一帯)。

句会場 下落合コミセン第4集会室

(このコミセンの利用は初めてですが、京浜東北線与野駅西口から徒歩3分です)

◎連絡先 秋山信行 ☎048-874-0555 藤井美晴 ☎0422-55-2733  
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 丑久保 勲 ☎048-853-3856

春の野の泥棒役と刑事役  
 火禱の壺にひと枝紅椿  
 春の日の日のあるうちに帰りけり  
 書き終へて後記を残す黄水仙  
 盆梅に夕日差しぬる喫茶店  
 全集のひとつが逆さ冴返る  
 春寒の棺に古き手紙入れ  
 蠟梅の向うに犬の鳴くこゑの  
 立春の魚板を叩く音のして  
 風花は磧に日暮きたるころ

春寒

秋山信行